資料４－①･②

平成２８年度　建設界の担い手確保・育成に関する取り組みについて

① 平成２８年度の部会活動総括　Ｐ１

② 各部会の取り組み報告　Ｐ２

平成２９年　１月３１日

北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会

平成28年度　各県部会の開催状況

- 平成２８年６月に第１回各県（新潟、富山、石川）を開催。
  平成２８年度の取り組み方針等を議論し、各部会の体制や活動予定を共有。
- 平成２８年１２月に第２回各県（新潟、富山、石川）を開催。
  平成２８年度の活動の情報共有と、平成２９年度に向けた、活動内容について議論を実施。
  ※新潟県部会については、メール等を用いて情報共有等を実施している。

平成２８年度 第１回 県部会　開催概要

【新潟県部会】平成28年6月20日（月）13:00～14:30
【富山県部会】6月24日（金）10:30～12:00
【石川県部会】6月 1日（水） 15:00～16:40
【 開　催　地 】北陸地方整備局、富山河川国道事務所、金沢河川国道事務所

平成２８年度 第２回 県部会　開催概要

【新潟県部会】平成28年12月
【富山県部会】平成28年 12月21日（水）15:30～17:00
【石川県部会】12月14日（水）13:30～15:00
【 開　催　地 】富山河川国道事務所、金沢河川国道事務所

第1回新潟県部会

第1，2回富山県部会

第2回石川県部会

平成28年度　建設界の担い手確保・育成に関する取り組みについて

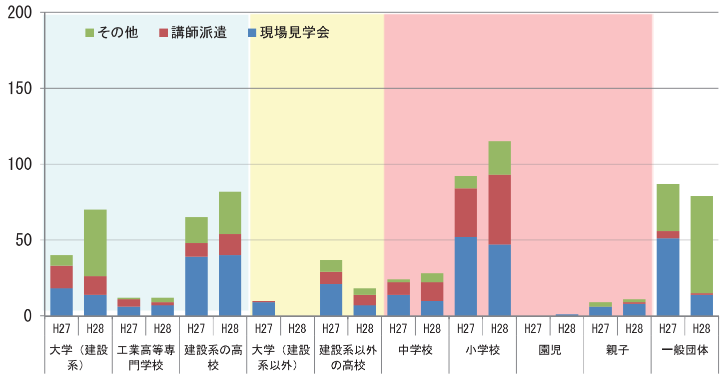
・平成28年度、各機関の活動数は417件であり、そのうちの4割が他機関・団体と連携し行われている。
・対象別では、建設系の学生以外を対象とした取り組みでは、昨年度の協議会で意見のあった中・小・園児・親子を対象とした取組が多く行われている。
・建設系の学生への取り組みは増えているものの、建設系以外の大学、高校への取り組みが減少している。
・今年度、インターンシップとして285人の学生、生徒を受け入れており、特に建設系の高校生を多く受け入れている。

表ー１

年度	建設系の学生対象	建設系の学生以外を対象			合　計	各機関で連携・合同で取り組んだ件数
		大学・高校	中・小・園児・親子	一般団体		
H27年度	117	47	125	87	376	164
	（ 31% ）	（ 13% ）	（ 33% ）	（ 23% ）	（ 100% ）	（ 44% ）
H28年度	164	18	156	79	417	172
	（ 39% ）	（ 4% ）	（ 37% ）	（ 19% ）	（ 100% ）	（ 41% ）

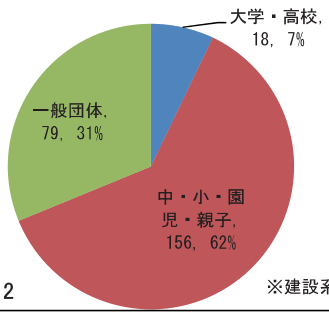
※H27年度の件数については、H28年度の集計方法にあわせ修正

平成28年度　対象別取り組み件数



グラフー1

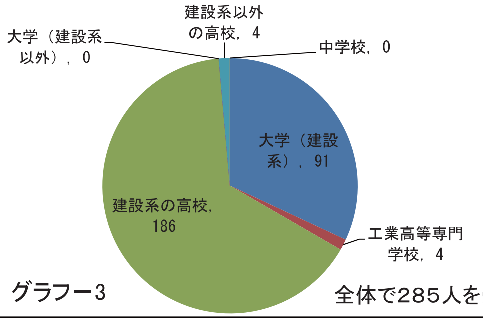
平成28年度　取り組み別実施件数



グラフー2

※建設系の学生除く

平成28年度　インターンシップ受入人数



グラフー3

全体で285人を受入

平成28年度　建設界の担い手確保・育成に関する取り組みについて（参考資料）

【留意事項】
本資料は、平成28年度の各機関・団体で、対象毎にどのような取り組みを行ったのか、幅広に事例を集め、各機関・団体が次年度以降の取り組みを考えるうえでの参考とすることを目的に整理したものです。
　実施件数は概ねの傾向を把握するために集計したものです。（※各機関・団体の判断により取り組みを分類し、報告頂いているため、分類の不整合を含みます。）

	平成27年度				平成28年度			
	現場見学会	講師派遣	その他	合計	現場見学会	講師派遣	その他	合計
大学（建設系）	18	15	7	40	14	12	44	70
工業高等専門学校	6	5	1	12	7	2	3	12
建設系の高校	39	9	17	65	40	14	28	82
大学（建設系以外）	9	1	0	10	0	0	0	0
建設系以外の高校	21	8	8	37	7	7	4	18
中学校	14	8	2	24	10	12	6	28
小学校	52	32	8	92	47	46	22	115
園児	0	0	0	0	1	0	0	1
親子	6	0	3	9	9	1	2	12
一般団体	51	5	31	87	14	1	64	79
一般団体含む	216	83	77	376	149	95	173	417
	現場見学会	講師派遣	その他	合計	現場見学会	講師派遣	その他	合計
一般団体除く	165	78	46	289	135	94	109	338

北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会 新潟県部会開催報告

国土交通省

- 北陸地方における建設界の担い手をめぐる現状や課題に関する認識を共有し、建設界の担い手不足に対し、建設関係団体、教育機関、関係行政機関等が一体となって、担い手の確保・育成の取り組みを推進することを目的として、平成26年10月3日北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会を設立。
- 平成２８年度の活動を推進するため、新たな取り組みの実施、取り組みの展開について検討。

開催概要
【新潟県部会】 平成２８年６月２０日（月）１３:００～１４:３０
- 〔会場〕 北陸地方整備局 ４F合同会議室
- 〔出席機関〕
  - ［行政］北陸地整、新潟労働局、新潟県土木部・教育委員会、新潟市
  - ［建設産業］日建連北陸支部、新潟県建設業協会、建設ｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ協会北陸支部、 新潟県測量設計業協会、新潟県地質調査業協会、日本道路建設業協会北陸支部
  - ［教育］長岡技術科学大学、長岡高専、新潟工業高校、新発田南高校

H28.6.22
日刊建設通信新聞

検討結果
①平成27年度新潟県部会の活動結果をふまえ中学生及び親子を対象とした取り組みを進める。

意見等
①国交省の取り組み事例紹介にもあったが、高校生にとって若手技術者との意見交換会は有意義である。但し、就職が迫っていることから、職種や仕事内容だけではなく、人材育成方針・労働条件・福利厚生などについても情報提供願いたい。
②女性技術者による、自らが職業を選択するにあたっての経験を交えた出前講座は、高校生の共感を得ていた。

協議会状況

新発田南高校　校長

新潟工業高校　副校長

北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会 富山県部会（H28.6.24）開催報告

○ 今年度第１回目となる**富山県部会を平成28年６月24日（金）に開催**。

○ 昨年度末の本協議会をレビューした上で、平成２８年度の体制及び活動予定を共有。教育、業界関係会員から**最近の動向、今後の活動に関する報告や提案がされた**。

北陸建設界の担い手確保･育成推進協議会

北陸建設界の担い手不足に対し、富山県内の建設関係団体、教育機関、関係行政機関等が一体となって、担い手の確保・育成の取り組みを推進することを目的として、平成26年度に設置。あわせて、地域における特定の課題等について検討を行うため、新潟・富山・石川の各県に部会を設置。

➢ 開催概要

日時　平成28年６月24日（金）10:30～12:00

会場　富山河川国道事務所 ３F会議室

会員機関　※印は当日は欠席

【行政】富山河川国道事務所、富山労働局、富山県土木部/教育委員会、整備局建政部※

【教育】富山大学、富山県立大学※、富山工業高校※、桜井高校、高岡工芸高校※、南砺福野高校

【業界】(一社)日本建設業連合会、(一社)富山県建設業協会、(一社)建設コンサルタンツ協会北陸支部、(一社)富山県測量設計業協会、富山県地質調査業協会、(一社)日本道路建設業協会北陸支部

【オブ】黒部河川事務所、立山砂防事務所、利賀ダム工事事務所、伏木富山港湾事務所

➢ 会員からの主な発言要旨

・**県内高校で受け入れている授業や講演等は大変好評**。一方で、全ての機会を受け入れる時間を確保できず、現場は苦慮していると聞く。

・中学校に対しては**進路指導に直接携わる先生との連携が重要**。高校は土木科だけでなく**普通科の学生へ土木の魅力を伝える機会を増やすことも有効**。

・**進路選択に当たっての親御さんの意見は強い**ことから、保護者も交えた意見交換会や公募による親子見学会などを通じた理解促進を図っていく。

・引き続き**インターンシップを通じて、専門外からも門戸を開きマッチング**をしていきたい。

➢ 開催状況

当日の様子①

当日の様子②

北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会 富山県部会（H28.12.21）開催報告

○ 今年度第２回目となる**富山県部会を平成28年12月21日（水）に開催**。

○ 会員機関より平成28年度の活動状況を報告。今後の活動予定の共有や意見交換を経て、次年度も引き続き、**産官学が連携・協力して取組みを進めていくことで合意**。

北陸建設界の担い手確保･育成推進協議会

北陸建設界の担い手不足に対し、富山県内の建設関係団体、教育機関、関係行政機関等が一体となって、担い手の確保・育成の取り組みを推進することを目的として、平成26年度に設置。あわせて、地域における特定の課題等について検討を行うため、新潟・富山・石川の各県に部会を設置。

➢ 開催概要

日時　平成28年12月21日（水）15:30～17:00

会場　富山河川国道事務所 ３F会議室

会員機関　※印は当日は欠席

【行政】富山河川国道事務所、富山労働局、富山県土木部/教育委員会、整備局建政部

【教育】富山大学、富山県立大学※、富山工業高校、桜井高校、高岡工芸高校、南砺福野高校

【業界】(一社)日本建設業連合会北陸支部※、(一社)富山県建設業協会、(一社)建設コンサルタンツ協会北陸支部、(一社)富山県測量設計業協会、富山県地質調査業協会、(一社)日本道路建設業協会北陸支部※

【オブ】黒部河川事務所、立山砂防事務所、利賀ダム工事事務所、伏木富山港湾事務所

➢ 会員からの主な発言要旨

・土木の本当の魅力は、かっこいいとか最先端の技術を使っているということではなく、**学生は熱さや必死さといったところに魅力を感じる**のではないか。

・進路選択に当たって、**現場見学・出前講座を通して、どのような仕組みでものができるか、どのように仕事をしているかを理解**できれば、興味関心が大きくなる。

・**卒業生である若手技術者から現場の話を聞く取組**の評判が良かった。

・生徒の**保護者は安全・安心に興味がある**。また、良いことばかりでなく辛いことも言ってくれた方が安心できるという意見もあった。

➢ 開催状況

当日の様子

報告状況
(富山大学)

報告状況
(南砺福野高校)

H28年度 建設界の担い手確保・育成推進協議会【石川県部会】 開催報告

北陸地方整備局
金沢河川国道事務所

- 6月1日に産学官が連携した「**北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会【第1回石川県部会】**」を開催しました。3月24日の本協議会意見を踏まえて、今年度の県部会の具体的な取り組み方針について意見交換を行いました。
- 参加機関からは、建設業のインターンシップや現場見学会等を通じた取り組みを通じて、学生が建設界を身近に感じ、業界のイメージを把握することに役立っている点などの紹介がなされ、取り組みの継続が求められました。
- 各機関からは、H28年度の取組予定などの紹介され、**昨年同様、産学官が協力して様々な取り組みを進めていくことを関係者で合意**しました。

開催概要

〔日　時〕平成28年6月1日（水）15:00～16:30
〔開催地〕金沢河川国道事務所
〔出席機関〕
［行政］金沢河川国道事務所、石川労働局、石川県土木部・教育委員会
［建設産業］日建連北陸支部、石川県建設業協会、建設ｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ協会北陸支部、石川県測量設計業協会、石川県地質業協会
［教育］金沢工業大学、石川高専、金沢市工高、石川県立羽咋工高・翠星高校

会議の主な発言要旨

- 景気が上向き、昨年卒業生の建設界への就職率は100%、学科も今年度は２クラス編成ができた。就業体験や現場見学、OBとの意見交換は学生が職業として、建設界を身近に感じるのに重要な機会（川村委員）
- インターンシップは生徒が建設業を把握するのに役立っている。今年度も取り組みとしてぜひ継続して欲しい。（小酒委員、塩田委員、北野委員、山﨑委員）
- 女性技術者を別枠で積極的に採用している、イメージ戦略としてメディアや雑誌に積極的に女性技術者を活用している。市民向けの現場見学会を実施しているが、石川県内での開催も今後検討して行きたい。（小川代理委員）
- 今年度も引き続き、昨年の活動と同様の取り組みを行っていくことで確認。（参加各機関）

開催状況

＜富山・石川県部会長あいさつ＞

＜各委員の討議状況＞

H28年度 建設界の担い手確保・育成推進協議会【石川県部会】 開催報告

北陸地方整備局
金沢河川国道事務所

- 12月14日に産学官が連携した「**北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会【第２回石川県部会】**」が開催され、今年度の各機関の実施結果の紹介と次年度に向けての意見交換が行われました。
- 参加機関からは、建設業のインターンシップや現場見学会等を通じた取り組みを通じて、学生が建設界を身近に感じ、業界のイメージを把握することに役立っている点などの紹介がなされ、次年度も取り組みの継続が求められました。
- 各機関からは、建設界の最近の求められる人材の変遷とそれに向けての人材育成のアプローチなど活発な議論もなされ、**次年度も引き続き、産学官が協力して様々な取り組みを進めていくことを関係者で合意**しました。

開催概要

〔日　時〕平成28年12月14日（水）13:30～15:00
〔開催地〕金沢河川国道事務所
〔出席機関〕
［行政］金沢河川国道事務所、石川労働局、石川県土木部・教育委員会
［建設産業］日建連北陸支部、石川県建設業協会、建設ｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ協会北陸支部、石川県測量設計業協会、石川県地質業協会、道建協北陸支部
［教育］金沢工業大学、金沢市工高、石川県立羽咋工高・翠星高校

会議の主な発言要旨

- 就業体験や現場見学、OBとの意見交換は学生が建設界を身近に感じるのに重要な機会、インターンシップも建設業を把握するのに役立っている。次年度も引き続き取り組みを継続して欲しい。　（川村委員、小酒委員、梶川代理委員、山﨑委員）
- 学科では女子生徒の比率が増えることにより学生数も増えてきている。社会に出て女性技術者が活躍できる道が出来れば、建設界を目指す在学生も増えてくると思う。平成30年度には就学生の減少により、建設系学科存続の危機感も持っているので、小中学生へのアプローチにも色々と工夫しながら取り組んでいる。　（梶川代理委員）
- i-construction等のＩＣＴ技術の活用により、今後、技術者の求められる質が多様化してくる恐れがある。鉄筋工・法面工・トンネル工等の技能者不足も深刻であり、教育機関も現場のニーズに合わせた教育を考慮する必要がある。　（川村委員）
- 石川県内の工業系学科の大学（県立大学）への部会参加のアプローチも効果的なので、今後事務局で調整して欲しい。（新家委員）

開催状況

＜富山・石川県部会長あいさつ＞

＜各委員の討議状況＞